

令和 6 年度 自己評価表

中長期目標	1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。 2 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。 3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。	今年度の重点目標	1 自己実現に向けた教育の充実 2 豊かな人間性の育成 3 社会人としての意識の高揚 4 働き方改革の推進
-------	---	----------	--

年 度 当 初				評 価 結 果 ()月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 自己実現に向けた教育の充実	主体的な学びによる基礎学力の定着	○授業評価アンケートの最上位項目が「わかりやすい」 76% 「先生の熱意を感じる」 78% ○授業の自己評価5段階評価で4以上 79% ○教材が工夫されていてわかりやすい 76%	○わかる授業を推進 授業評価アンケートの最上位項目が「わかりやすい」 80%以上 「先生の熱意を感じる」 80%以上 ○授業の自己評価で4以上80%以上 ○ICTを効果的に活用 80%以上	○授業公開および授業評価アンケートを活用した授業改善 ○各教科でのルーブリックの活用とパフォーマンス評価の実施 ○授業の中で、Chromebookを積極的に活用			
	特別支援教育の充実	○SSW、SCと、定期的にケース会議を行い、関係機関とも連携して生徒支援にあたった。 ○生徒情報交換会、ハイパーQUR研修会を実施するとともに、生徒情報を共有して支援に役立てた。 ○特別支援教育支援員・米東サポーターの配置により、授業サポートを実施した。	○SC、SSWとの連携 ○教職員の特別支援教育に対する意識の向上 ○特別支援教育支援員・米東サポーターの有効活用	○SC、SSWと2週間に1回ケース会議を実施 ○生徒情報交換会、ハイパーQUR研修会に加えて教員向け研修を実施 ○特別支援教育支援員の支援活動計画を更新			
	進路指導の充実	○令和5年度卒業生は就職5名、進学4名、その他5名であった。 ○学年、進路指導部、CAで連携して指導を行うことができた。ハローワークと連携した就職指導も効果的であった。 ○進学希望者向け業者テストを延べ3名が受験した。	○就職内定率及び進学決定率100% ○CA、ハローワークと連携 ○進学希望者向け業者テストを延べ4名以上受験。	○LHR、進路講演会、個人面接による就職・進学に対する心構えの徹底指導 ○CAによる進路指導講話、進路面談の実施 ○生徒・保護者に進路情報を伝達			
	キャリア教育の充実	○生徒は、キャリア・パスポートに講演会等の振り返りを記録した。記録する内容を深めていく。 ○地元企業・学校見学を通して、生徒自身にキャリアデザインについて考えさせている。	○キャリア・パスポートの有効活用 ○キャリア意識の醸成	○キャリア・パスポートに、講演会・行事の振り返りを記入 ○3年間を通して生徒自身のキャリアデザインを構築			
2 豊かな人間性の育成	生徒会・部活動の活性化	○生徒会執行部を中心に大運動会の企画・運営を行い、初めてグラウンドで開催することができた。 ○全国定時制通信制総合体育大会にバレーボール男子、バドミントン女子が出場した。	○生徒会活動や部活動、学校行事での生徒の主体的な取組の推進 ○部活動の推進	○生徒会活動のなかで、リーダーの育成 ○学校行事・部活動において、生徒が主体的に活動する機会を増強 ○学校ホームページの更新回数を増やす			
	興味・関心を喚起する体験的活動の実施	○行事を苦手とする生徒もいるが、人との関わりを通して成長できるように進めている。 ○芸術鑑賞や地元の資源体験を通して、郷土への興味と関心を深めることができた。	○体験的な活動による豊かな心の育成 ○地域に根ざした教育活動	○新たな体験活動の充実 ○体験を通して、地域の魅力を伝える			
	人権感覚豊かな生徒の育成	○生徒向けの人権教育講演会を2回実施した。 ○人権LHRでの話し合い活動で、他者の様々な意見に触れる機会を持った。	○各領域での人権意識の育成 ○お互いが安心できる集団の形成	○生徒向けの人権教育講演会を2回実施し、加えて教員向けの研修も実施 ○人権LHRでの話し合い活動を増やす			
	社会参画できる生徒の育成	○定通教育充実事業を通して、社会に対する理解を深めている。 ○講演の際、人の話を聞く姿勢が向上した。また、講演後の感想もきちんと記入できる生徒が増えてきた。	○社会人としてのマナーを身に付ける ○人の話をきちんと聞いて、自分の意見を考えることができる生徒の育成	○異世代と交流の機会を1年次生徒に設定 ○講演会のときに「きちんと聞いて、きちんと考えて、きちんと書く」ことを指導			
3 社会人としての意識の高揚	規範意識の醸成	○問題行動件数2件。生徒指導を徹底し、生徒は落ち着いて学校生活を送っている。 ○出席することに意識が希薄な生徒がいる。令和5年度は1年間皆勤0名、精勤2名であった。	○落ち着いた教育環境の維持 ○問題行動発生件数3件以下 ○1年間皆勤及び精勤5名以上	○挨拶の励行、生徒への日常の声かけの実施 ○安定した生活習慣の継続を指導 ○教職員間の情報交換、保護者との連携			
	家庭との連絡の緊密化	○担任を中心に、こまめな家庭連絡を継続し、無断欠席については、昨年度より減少した。 ○はじめあるスマートフォンの利用ができるよう指導している。	○欠席の多い生徒を減少させる ○保護者の学校理解を促進	○面談・カウンセリングの実施 ○保護者面談の実施、こまめに保護者連絡 ○学校ホームページ等による学校の教育活動の発信			
	【体】育、【食】育の推進	○生活習慣に関するアンケートを年間3回実施した。 ○「食」の講演会を実施、朝食を食べる生徒が50%から70%に増加した。 ○睡眠が十分でないと感じている生徒の割合48%	○生徒の健康に対する意識の向上 朝食を食べる 70%以上 睡眠が十分である 60%以上	○生活習慣に関するアンケートを年間2回実施 ○「食」の講演会・定時制夜間給食の実施 ○睡眠に関する保健指導・啓発			
	よりよい学習環境の整備	○清掃月間を設定して校舎の環境美化に努めた。 ○ゴミの放置が散見されるので、ゴミの持ち帰り・分別を粘り強く指導していく。 ○学習椅子の騒音対策の活動が行われ、学習環境の整備ができた。	○校内環境の整備 ○HRの時間に生徒と教員で清掃活動	○ゴミの持ち帰り・分別を指導し、ゴミの減量化に繋げる ○清掃活動の継続			
4 働き方改革の推進	業務の効率化	○学事支援システムの導入により、成績処理にかかる時間を大幅に削減できた。 ○分掌のフォルダ、ファイルの整理を進めて、次年度の業務引継ぎ等に役立てる。	○円滑な業務の遂行 ○時間外業務の縮減	○学事支援システムの有効活用 ○分掌内における業務分担の見直し ○分掌内のフォルダ、ファイルの整理			

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [30%以下]